

本校は創立2年目から、「体育」を研究しています。今年で39年ということになります。

その間、S54「基礎体力づくり推進校」（県・市指定）、S63「体力づくり推進校」（文部省指定：1年次、2年次、3年次研究発表）、H4、H7「研究実践発表」、H18「特色ある教育活動推進事業（体育）」（市教委：1年次、2年次、3年次）、H24「第10回阪神地区小学校体育研究大会（尼崎大会）」、H29「第62回全国体育学習研究協議会 阪神大会」など、学校の取り組みを発信してきました。

「体育」を研究教科としている”特色ある学校”ということができます。

運動がもつ「面白さ（楽しさ）」に触れることで、より“自主的”に。そして、運動の魅力に惹かれ、より高い自分をめざすために、“粘り強く”取り組む姿をめざしています。

体育（教科外体育）では、チームや学級の仲間、その他色々な集団で関わりを持ちます。その集団で、助け助けられ、教え教えられ、協力し合いながら、自分の良さを再発見したり、友だちの良さを見つけたり、お互いの苦手を補い合ったり・・・また、色々な友だちの考え方や願いを知ったり、認めたりしていきます。このように、多様な価値を受けとめ合うことも体育として、大切にしたいと考えます。

このような体育での学びは、他教科にもよりよい影響を与えるとともに、思いやりにもつながるのではないのでしょうか。

「個と集団のかかわりに基盤をおき、人間尊重の精神に徹して ゆたかな心とたくましいからだをもつ子どもの育成をめざして伸びゆく子どもの力をひき出す学校をつくる」という本校が引き継いできた伝統と結びつくものとらえます。

日々、「運動のもつ楽しさ（面白さ）」を大切にしながら、子どもを育てていきたいと授業を進めています。

一例ではありますが、6年1組（中野学級）で行われた「ベースボール」を紹介します。

この運動の面白さ

ベースボールの面白さは、『打った人と守っている人が投げたボールがどちらが早くベースにたどり着くかの競争』つまり『ランナーと送球の競争』だと考えています。もちろん、バットでボールを打つことも楽しいことですが、それは、『ランナーと送球の競争』をより楽しむための手段だと考えていて、3年生までは打つ代わりに投げて攻撃するベースボールをしています。

〈2年生〉

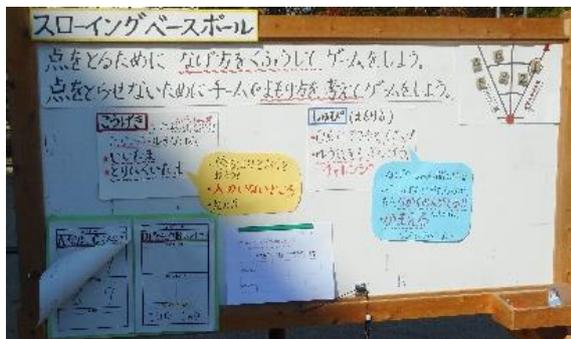


打たないで、手でボールを投げて攻撃

〈6年生〉



バットで打つことで攻撃



〈スローイングベースボール：ねらい〉



〈ベースボール：ねらい〉

授業を進める (指導者として気をつけていること・工夫していること)

子どもたちがどこに一番ワクワクドキドキしているかを見ながら指導しています。体育なので動きを身に付けて欲しいという思いもありますが、中学校の部活ではないので「もっとこうすれば、さらに楽しくなるよ。」というように、子どもたちがしてみたいと思えるように声をかけています。また、それをできるだけ子どもたち自身で気付けるように授業を進めています。



学びの中から (子どもの成長として)

1時間の授業は、『ゲーム (前半)』⇒『ふりかえりと練習』⇒『ゲーム (後半)』という流れで行っています。最初ではなく途中に『練習』を入れることによって子どもたちは、『ゲーム (前半)』で出来なかったことを考え、『練習』をして『ゲーム (後半)』につなげようとしています。例えば、フライを落とすことが多くて失点していたチームは、一人がフライを投げてキャッチする練習をしたり、守備が上手な子にボールを取られて得点できなかったチームは、ねらった所に打つ練習をしたりしています。このように自分たちで『課題』を見つけ、みんなで協力しながら『解決』しようとする力を体育の学習の中で養っています。

子どもの声

連絡帳を書いていると「先生、明日朝練していい？」という声が聞こえてきます。とくに嬉しいことは、普段、野球をやっていない女の子からもその声が聞こえてくることです。クラスの子どもたちが朝や放課後にベースボールをやりたいと言ってくれているということは、面白さを感じているのだと思います。これからも、子どもたちが運動に親しみ、『やってみよう』と思えるように授業作りをしていきたいと考えています。



〈朝の練習風景〉



〈授業の様子〉



〈夕方、先生や他の学年と〉



〈授業の様子〉